

令和2年2月25日 教育委員会報告事項についての質疑応答（要旨）

（報 告）

ア 令和2年度発達支援学級新設予定校について

※教育総務課から資料に基づき説明。

（田中委員）発達支援学級新設予定校には、新設を待機している児童生徒がいたのか。それとも、新たに、入学する児童生徒がいることから新設するのか。

（就学支援担当課長）自校に発達支援学級が無く新設を待機している児童生徒もいる。また、入学予定の小中学校に発達支援学級が無い場合、通学区域内の発達支援学級設置済みの他の小中学校へ通学していただくよう案内している。従って、発達支援学級を新設することは、児童生徒にとってメリットが大きいことと考えている。

（安田委員）教員1人が、自閉症・情緒障害の児童生徒5人の担任となることは、非常に大変なことなので、担任をサポートする体制を充実させて欲しい。

（教育総合支援担当課長）自閉症・情緒障害の学級へ通級する児童生徒の様子を踏まえ、サポートを行っている。今回新設する発達支援学級新設予定校についても、必要なサポートを実施する予定である。

イ 「令和元年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」浜松市の結果（概要）について

※指導課から資料に基づき説明。

（安田委員）今回調査対象の中学校2年生は、ほとんどの項目で全国平均を上回っているが、小学校5年生の時も同様に全国平均を上回っていたか。

（指導課長）今回調査対象の中学校2年生の小学校5年生時の状況はわからないが、本市の特徴として、中学生になると部活動の影響等により、全国平均よりも上回る項目が多くなる傾向にある。

（渥美委員）運動は子供達の知能の発達に良い影響があると思うが、学力と体力に相関関係はあるか。

（指導課長）明確な根拠があるわけではないが、工夫・試行を重ねるためには、思考力や判断力が必要なので、一定の相関関係はあるように思う。

（黒柳委員）中学生の結果が良いのは、部活動の影響が強いと思う。一方、小学生について、昔はソフトボールやポートボールなどの子供会の活動に参加する児童が多かった

が、今はその活動が縮小傾向であることで、体力・運動能力、運動習慣等調査の結果が年々悪くなる傾向にあると思う。要望として、コミュニティ・スクール等を活用しながら、地域の活動を盛り上げて欲しい。

(鈴木委員) 中学校男子の体力合計点が、小学校男子・女子、中学校女子と比較して10点ほど低い原因は。

(指導課長) 中学校の点数表は高校と同じものであることから、中学校男子は高得点を取りにくいことが原因である。

(田中委員) 今後、小中学校の普通教室に空調機器が導入されるので、朝の涼しい時間に体育授業を行うことも良いと思う。

(指導課長) 朝の涼しい時間は、体を動かすことに適した時間であるとともに、座学の効果が高い時間帯という考えもある。空調機器導入のメリットを活かしながら、時間割の編成について工夫することも考えられる。

(安田委員) 浜松市平均と全国平均に大きな差があれば問題だが、今回の結果を見るとほとんど同値なので、あまり課題があると考えなくて良いと思う。

#### ※非公開

ウ 令和2年度浜松市立小学校及び中学校の学級編制の基準について

エ 令和2年度浜松市立小学校及び中学校の学級編制基準日について